なつかしさ
20250913

ひと、もの、ことにかかわる

時代の変化→土地、なくなった建物

ふるさと→時間の経過が必要

こころにあるもの、こと

過去のことに関する思い出

経験したこと、その時に感じたこと

いい思い出→耐えられる思い出

なつかしいけどもどってこない→子ども

つらいものがあった方がなつかしく感ずる

失恋→乗り越えられてなつかしい

ふるさと→いい思い出がない

自分の中で納得できる→なつかしい

思い出したくない方が多い

昇華できているものもあればできていないものがある

快く感じるか感じないか

切実に生きた記憶

花さくや二十歳のころの鐘の音（一茶）

水蒸気も光の当たり方で虹となる

記憶の受け取り方で虹にもなる

なつかしさの感情はどうして、何のためにあるか

なつかしさ→懐かしさ→許しの感情

昇華→納得

シベリア帰りの元兵士→口をつぐんで語らない→思い出したくない、トラウマ

悲しい歌に涙を流す

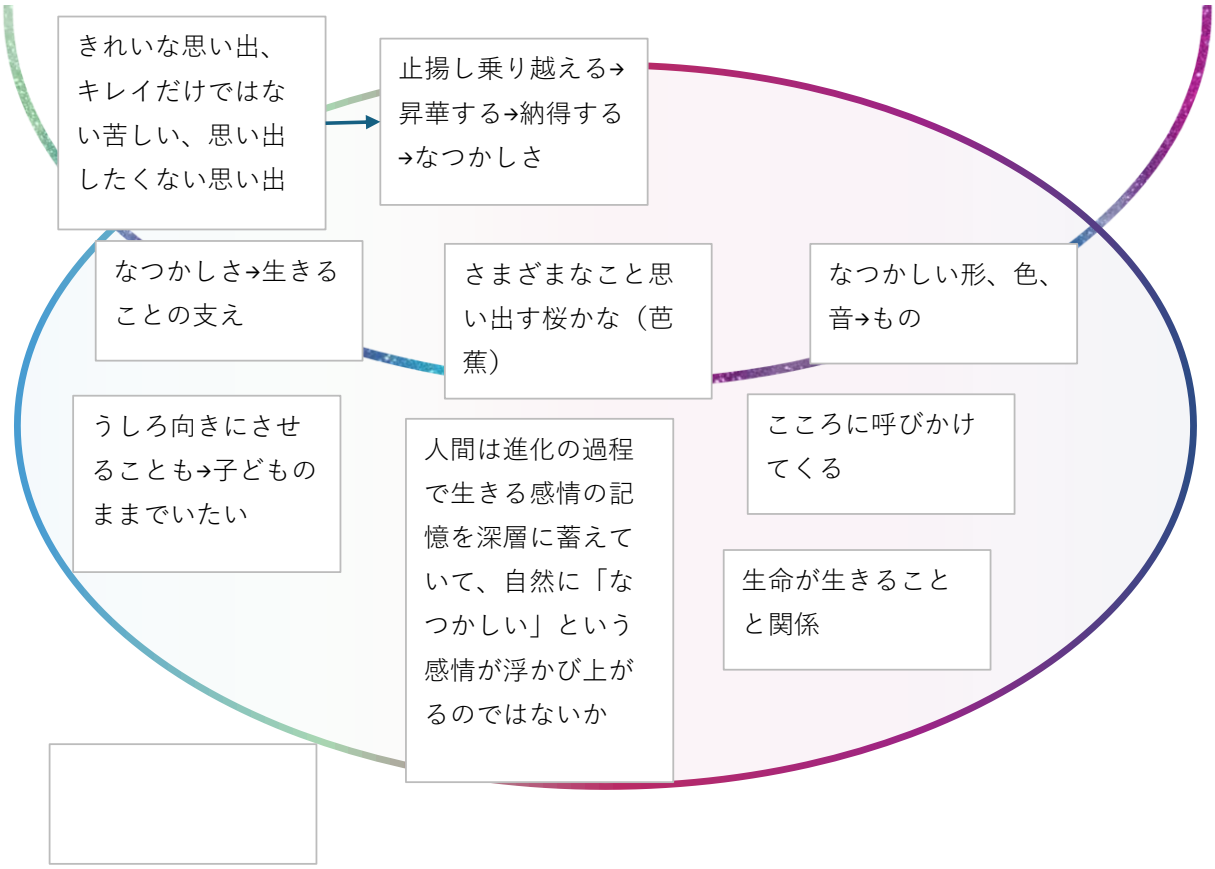
なつかしさは誰でもが感ずる→普遍性のある感情

生きるために振り返り思い出を共有する

むかしのことを思い出す

記憶に関わっている

自然に思い出すこと


きれいな思い出、キレイだけではない苦しい、思い出したくない思い出
止揚し乗り越える→昇華する→納得する→なつかしさ
なつかしさ→生きることの支え
さまざまなこと思い出す桜かな（芭蕉）
なつかしい形、色、音→もの
うしろ向きにさせることも→子どものままでいたい
人間は進化の過程で生きる感情の記憶を深層に蓄えていて、自然に「なつかしい」という感情が浮かび上がるのではないか
こころに呼びかけてくる
生命が生きることと関係